

各論2－NPB改革

～改革方法の改革～

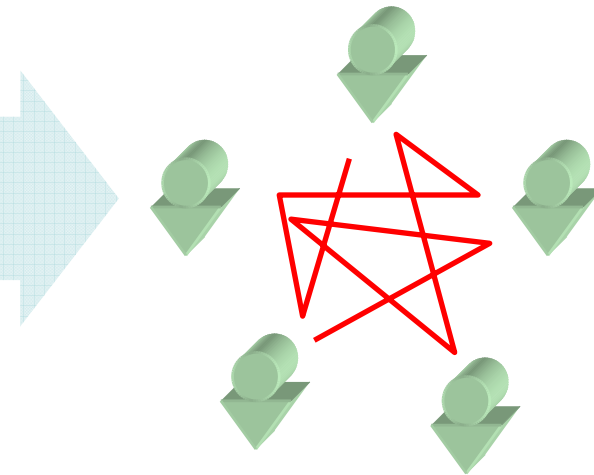
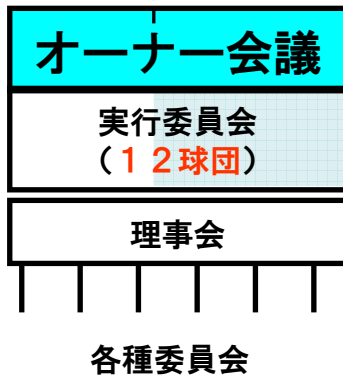
NPBを中心とした改革体制への変更

1. NPBの意思決定方法の改革の必要性

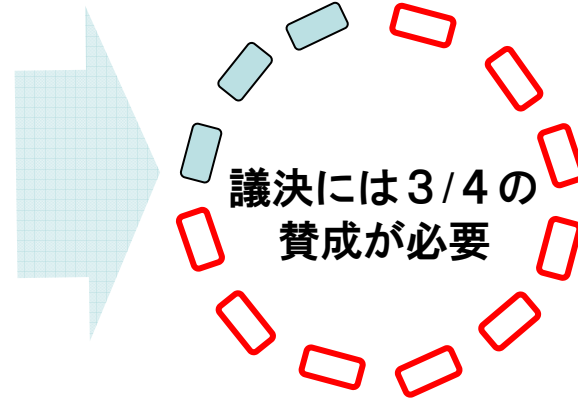


現状

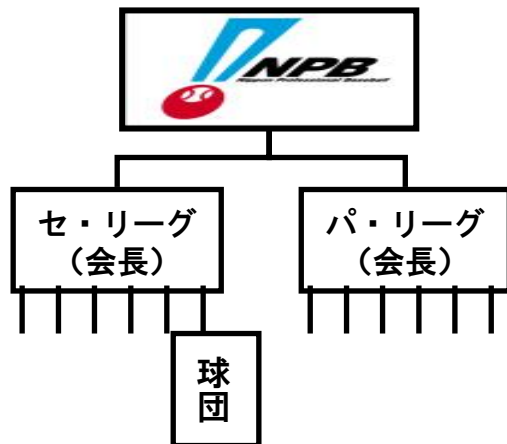
意思決定機関



複雑で激しい利害の対立

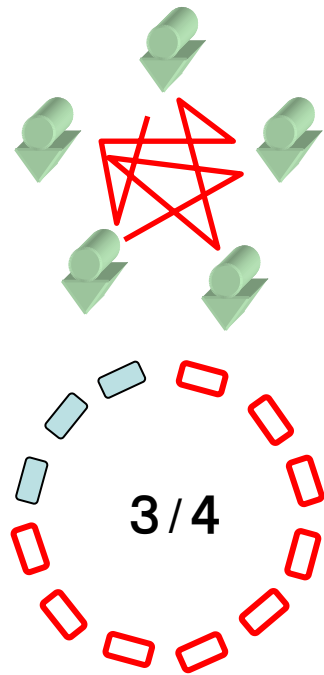


常に否決が続く現状



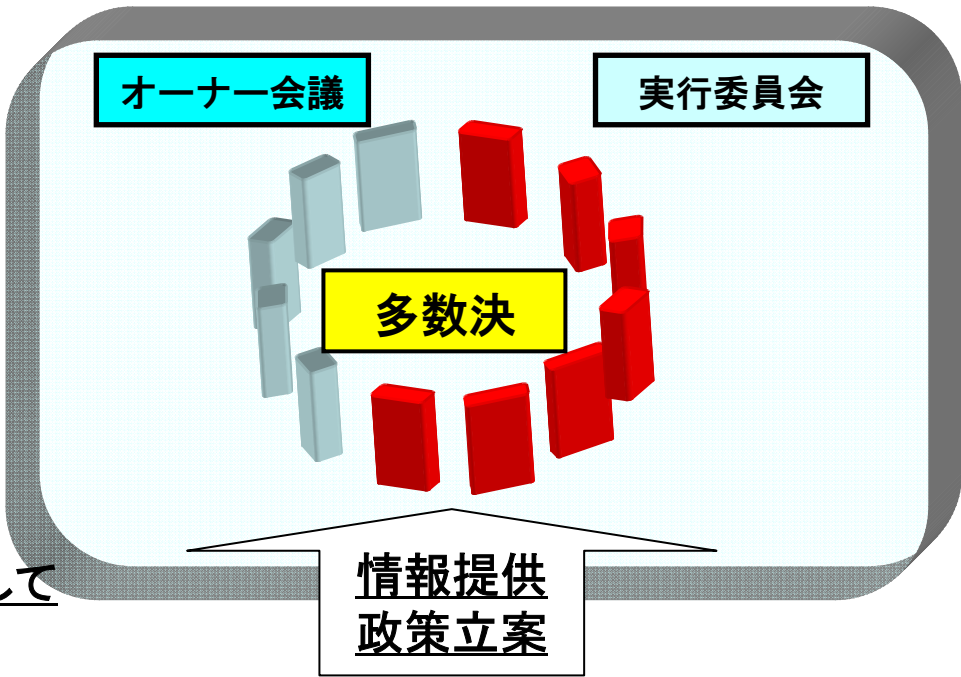
改革に必要な意思決定が下せない

改善策



① 多数決制を採用

解決策として



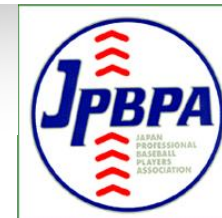
さらにその前提として

NPB内部の対応専門チーム

専門家を交えた外部リサーチ機関

② 意思決定の前提となる情報・政策立案力を充実させる必要がある

2. NPBの国際戦略の必要性



対アジア



マーケットをアジアへ拡大



対MLB



対抗する下地を作るための
準備期間を確保

NPB内部にこれらを考える戦略部隊
外交力ある体制作りが必要

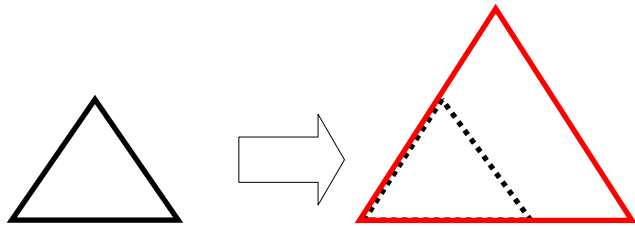
NPB国際戦略室

- ・外部から優秀な人材を登用
- ・NPBの国際戦略立案

3. 体制強化の方法論

これらの新しいNPBの体制を整備するためには……

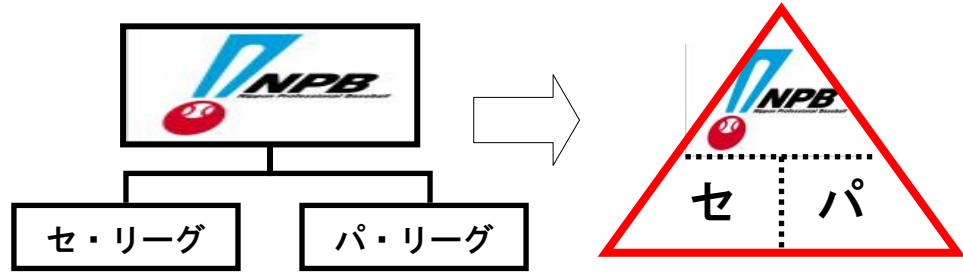
NPBの収益を増やす



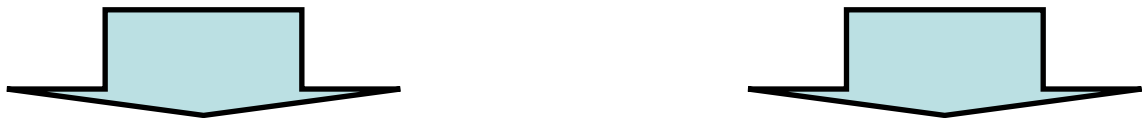
日本シリーズ 日本チャンピオンシップ (仮)

ポストシーズンの収益拡大

NPBの支出を減らす



三局統合	事務効率の改善
	NPB・セ・パの意思決定プロセスの合理化



NPB情報収集・戦略立案チーム(内外)
NPB国際戦略室

財源確保

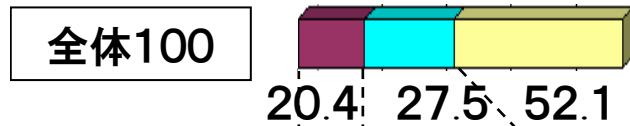
NPBの体制の強化

日本シリーズ拡大による拡充されたNPB資金の分配例



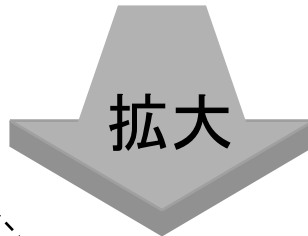
現在の日本シリーズ全体の利益を100とした場合

- 選手資金
- NPB資金
- 出場球団資金
- (新)球団資金
- プレミアム



*仮に過去10年のシリーズ平均試合数である5.5試合を要した場合を前提として利益についても仮定の数字を用いて試算した場合の割合

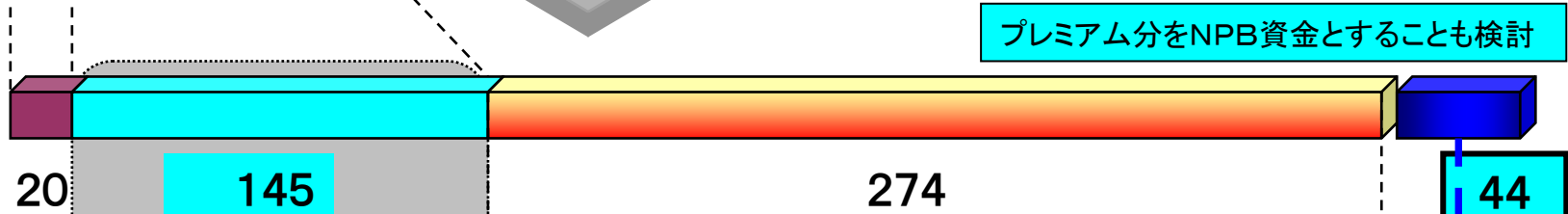
選手基金は現状の「額」を維持



「試合数4.4倍+プレミアム10%」と仮定

*日本シリーズ=最大7試合
日本チャンピオンシップ(仮)=最大31試合

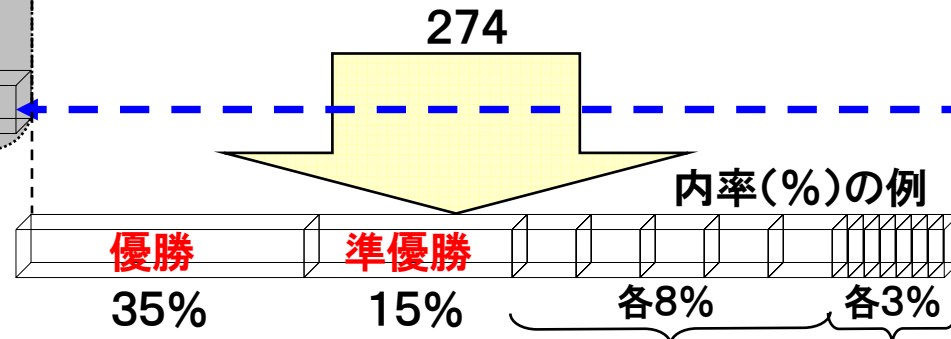
全体440 + 44



プレミアム分をNPB資金とすることも検討

計190

NPBの財源



他の日本チャンピオンシップ出場4チーム 不出場の6チーム

*この分配案は、あくまで一例であるが、試合の主催を分配することではなくこのように収益を分配することであれば、数字の設定によって細かい調整が可能であり、NPBの体制整備における有用な財源としようとする。